

コロナ禍後の学習塾・予備校・私立学校経営を考える

—健全な保守と、健全なりべラルの精神で、基本から考え直そう—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：最初に一言どうぞ

A：(1)東日本大震災から本年度で12年、震災で犠牲になられた皆様のご冥福を心からお祈りいたします。

(2)また、先日のトルコ・シリア地震で犠牲になられた皆様のご冥福と、被災地の一日も早い復興を心からお祈りいたします。

(3)さらには、ロシアのウクライナ侵攻の一日も早い停止と、ウクライナ復興の一日も早い着手を、心からお祈りいたします。

○この度のウクライナ戦争で犠牲になられた、ウクライナ・ロシアの皆様のご冥福を心からお祈りいたします。



Q：コロナ後の学習塾・予備校・私立学校経営はどのようにしたらよいとお考えですか。

A：(1)すべての先生方やスタッフのご尽力と、塾生・保護者・地域社会・ビジネスパートナーの皆様のご理解とご協力、ご支援で、様々な形にせよ、コロナ禍を生き延びることができました。ですから、まずは皆様に心からの感謝を申し上げることが第一。本当にありがとうございました。心から感謝いたします。

(2)では、コロナ禍後、これからどうしたらよいか。せつかく生き延びたのですから、ものごとを抜本的なところから考え直すことが大切と思います。

(3)なぜなら、我々を取り巻く環境は、この3年間のコロナ禍で劇的に変化しました。一番大きな変化は、出生数の大幅な減少です。2021年の出生数は年間81万名でしたが、2022年の出生数は年間79万名。初めて70万名台となりました。2012年と比べ、10年間で23万名以上の減少です。



Q：ではどうしたらよいとお考えですか。

A：(1)各学習塾・予備校・私立学校には、歴史や伝統、文化、ノウハウの蓄積があります。歴史や伝統、文化、蓄積した経営ノウハウを、もう一度ゼロから見直し、しっかり磨き込む。問題があれば、どんどん手直しする。伝統を尊重しつつ、歴史的な英知を優先する。このような「健全な保守の精神」を、今こそ発揮すべきと考えます。

(2)ただし、これからは女性・シニア・外国人材など、多様な人材を積極果敢に登用し、一人

一人の自由な発想、創造性を肯定。自由や寛容、多様性などを擁護し包摂する「健全なりべラルの精神」も、同時並行して大切にすべきと考えます。

(3)自分たちが立ち上げ育てた学習塾や予備校・私立学校を、コロナ禍後と、出生数急減という厳しい状況を乗り越えるために、変化させるために、むしろ一度立ち止まって、自分たちにとって何が大切かを改めて考える必要があります。自分たちにとり原点となる価値観を再確認。課せられた境遇と条件の下で、自らの意思で、自分なりの最善を尽くすべきと考えます。



○今こそ、自らが築き上げた歴史と伝統、文化を大切にする「健全な保守の精神」と、多様な人材や、多様な考え方や価値観の存在を認め、それらを真に包摂していく「健全なりべラルの精神」を、同時並行して大活用すべき時期です。

*以上、先月もご紹介した、宇野重規著「日本の保守とリベラル、思考の座標軸を立て直す」中公選書、中央公論新社、2023年1月10日刊を参考にさせていただきました。

Q：最後に一言どうぞ

A：僭越ながら、今月も先生方がお読みになれば必ずお役に立つ本をご紹介します。

(1)1冊目は、先ほど紹介させていただいた、東京大学社会科学研究所教授で、欧州政治思想史の第一人者であられる宇野重規先生の「日本の保守とリベラル」中公選書です。日本独自の保守・リベラルとは何かを考え、自分自身の思考の座標軸を作り上げるのにとっても役立ちます。政治家を批判する前に、主権者として、自分自身の思考の座標軸をしっかり築き上げてまいりましょう。ぜひお読みください。

(2)2冊目は、田中英道著「日本国史(上・下)」育鵬社、2022年3月20日刊です。イタリア美術史の第一人者の先生の渾身の日本史。「新日本古代史」育鵬社、2021年5月10日とともにお読みください。小学生、中学生、高校生に社会を教える先生方にお役に立ちます。

(3)3冊目は、和田秀樹先生の最新作、3冊。「ぼけの壁」幻冬舎文庫、幻冬舎2023年1月4日刊、「『80歳の壁』は結局、免疫力が解決してくれる」宝島社新書、宝島社、2022年10月21日刊、「80歳の壁、脳と身体の老化予防」幻冬舎新書、幻冬舎2023年3月28日刊。老齡の親やご家族、お友達がいらっしゃる、20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代の皆様の手引書。対応を知っていると知らないのでは、大きく違います。必読書です。

○田中英道先生の「老年こそ創造の時代、『人生百年』の新しい指針」勉誠出版、2020年2月20日刊もぜひお読みください。老若男女、読んだ人が全員元気になります。

(4)4冊目は、國分功一郎著「スピノザー読む人の肖像」岩波新書、岩波書店、2022年10月20日刊です。スピノザ著「知性改善論」岩波文庫、岩波書店、1931年4月5日刊、同著「エチカ(上・下)」岩波文庫、岩波書店1951年9月5日刊をお読みになる前後に、ぜひご一読ください。

(5)5冊目は、セネカ著「人生の短さについて、他二編」岩波文庫、岩波書店、1980年11月17日刊です。よく生きれば、人生は十分長い、同感です。他二編とは、「心の平静について」と「幸福な人生について」です。身に沁む作品で



す。

○マルクス・アウレリウスの「自省録」（岩波文庫）、更には、「トマス・アクィナス」（岩波新書）、アリストテレスの「ニコマコス倫理学（上・下）」（岩波文庫）などをじっくり読み込み、先生としての基礎的な読書となさってください。

(6)6冊目は、シェイクスピア作・松岡和子訳「シンベリン」シェイクスピア全集 22、ちくま文庫、筑摩書房、2012年4月10日刊です。今月は「シンベリン」をおすすめします。

(7)7冊目は、小林勝人訳注「孟子（上・下）全2冊」岩波文庫、岩波書店、1968年2月16日刊です。先生として「孟子」は必読です。現代語訳だけでもOKですから、何回かお読みになると参考になります。

○「大学」「中庸」も、現代語訳だけでもOKですから、岩波文庫で何回か読み、身に付けてください。最後に、岩波文庫で「論語」全499章を、じっくりご理解ください。「論語」「孟子」「大学」「中庸」のいわゆる「四書」は、昔も今も、先生として必読書です。



○先生がしっかり勉強すれば、そのよい影響は計り知れません。どうかよろしく願いいたします。

(8)8冊目は、タフツ大学准教授のクリス・ミラー著「CHIP WAR、半導体戦争：世界最重要テクノロジーをめぐる国家間の攻防」ダイヤモンド社、2023年2月14日刊です。1987年生まれ、ハーバード大学卒、イエール大学で歴史学博士号を取得、フォーリン・アフェアーズに寄稿する気鋭の経済史家です。わかりやすさ抜群です。経済安全保障の歴史や本質的理解に役立ちます。是非、ご一読を。



2023年3月11日記